

## 第5回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会議事録

### ■日時

令和6年11月26日(火)13:30～15:00

### ■場所

草津市立市民総合交流センター(キラリエ草津)402 会議室

### ■出席委員

乾委員長、深川副委員長、森田委員、宮木委員、出呂町委員、井戸田委員、磯山委員、木下委員

### ■欠席委員

四方委員、浅見委員

### ■事務局

#### 【行政】

河合部長、西山課長、坂居課長補佐、藤原係長、石原主任

### ■中間支援組織

#### 【(公財)草津市コミュニティ事業団】

福留事務局長、茶木課長、栗田氏、中村氏

#### 【(福)草津市社会福祉協議会】

秋吉課長、青木副参事

### ■傍聴者

無し

## 1.開会

それでは、定刻となりましたので、ただいまから、令和6年度第5回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会を開催させていただきます。

本日は、公私共に御多用の中、当委員会に御出席賜り、誠にありがとうございます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、まちづくり協働課の西山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本日は8名の委員に御出席いただいております、本委員会の半数以上の出席がございますことから、草津市附属機関運営規則第6条第1項に基づく委員会の開催要件を満たしておりますことをお伝えいたします。

また、四方委員と浅見委員につきましては、本日御都合により御欠席となっております。

さて、当委員会につきましては、草津市市民参加条例第9条の規定に基づき、傍聴が可能となっておりますが、本日は傍聴の方はおられません。

なお、当委員会は、会議録について後日公表させていただきます。また、記録のため、委員会の様子を写真に撮らせていただきますこと、御了承ください。

それでは次第の2. 協議事項の前に、申し訳ございませんが机の上に1枚差し替えの資料を置かせていただいております。

第2章の8ページの一番下の1行が印刷できていなかったことが判明しましたので、急遽差し替えを印刷させていただいております。

それでは次第2協議事項に移らせていただきます。ここからの進行につきましては、乾委員長にお願いしたいと思います。

#### 【委員長】

皆さんこんにちは。今日は最終チェックとはいうものの、もう市役所の中でかなり調整されていますので、今から全部覆るとなると大変ですけれども、これまでいろいろ出てきた話がきちんと反映されているかどうかという視点で見ることになりますね。

これまでの議論が載っているかということを頭に置きながら見ていただく方がいいと思います。その辺がどう変わっているのかを事務局から説明していただいて、そこから議論というふうにしたいと思います。お願いします。

## 2. 協議事項

---

#### 【事務局】

(第4回委員会からの主な変更点について説明)

#### 【委員長】

全般的には今まで出ていた話ですが、今回意見が出たものも含めて反映してもらえるということになりますので、先ほど宿題で区別をしてきてねという部分を見ながら、これはどうなっているのかなと見ていただく方がいいと思います。

【C 委員】

33ページの「目標値の達成に向けたチェックポイント」というところで、チェックがついているところとついてないところと、チェックの種類が違うところがあるのですが、これは何か意味があるのでしょうか。

あとは「情報の発信・取得・共有」の目標値の達成に向けたチェックポイントのところで、チェックが3つあるのですが、3つ目のチェックはなぜ種類が違うのかと疑問に思いました。

2番目の「場所・機会の提供」による「人づくり」のところの一番下の目標値のところは、数値だからチェックがなくてもいいのかとも思いますが、チェックポイントだからチェックがあるべきなのではないかとも思いました。

【事務局】

3つ目についてはフォントミスです。申し訳ございません。

【C 委員】

そういうことですね。わかりました。

あともう1点あります。44ページの1番上のところに、市民×まちづくり協議会×教育機関(大学生)とあって、ここは文章の中の関係機関の役割というところに関連しているということでしょうか。

というのも、前回はここに「ヤマミラ」というのが出ていたのですが、そこはもう消えてしまっている。「ヤマミラ」というのは元々山田の未来を考える若手ワークショップというところで誕生した、市民が集まってできた団体なのに、「関係機関の役割」のところに市民が入っていないので、これはどうなっているのかなと思いました。

【事務局】

この事例で一番伝えたいことは、ポイントにあるように、とりあえずやってみようと思った若い世代、いわゆる市民の活動が輝きを放っていますということ、またここを見守るまち協のベテラン役員さんがいるということは、他の学区にも事例がないのかなと思っています。

担い手不足ということで、今、既存の組織や活動団体で次世代を担っている若い世代の担い手を確保しようとする動きが多くありますが、もちろん山田もそういう思いがあると思います。

しかし、とりあえずやってみようという興味関心から集まった若い市民さんたちを上手に巻き込もうとされている事例であるという視点でいったので、確かに上に市民、まちづくり協議会、教育機関と書いていますが、そこは大学生であり地域の若者ということの市民で、関係機関というところでいうと、ちょっとちぐはぐかもしれませんが、こういう書き方の方が良いのかなというのでこういうふうにかかせてもらっています。

#### 【委員長】

これも実は「ヤマミラ」が主軸となり、と書かれているのですが、どこにもそれがはっきりと強調されていないですね。

しかもそういう記述上の問題だと思いますから、もう少しちゃんと書いておかないといけないと思います。

あと、関係機関の役割の部分で、市民のことを機関だと考えるのは確かに変だと思いますが、書くならここにも書いておかないといけないと思います。

逆に大学生と書いてあるものは、大学生の個別のものなのか、それとも立命館大学のセンターが間に介在しているのかというのは重要だと思います。

そのあたりもきちんと分類してもらわないとメッセージとして伝わらないのではないかと思います。

#### 【事務局】

そこはうまく表現できるように再考します。

#### 【C 委員】

隣の＃3の渋やる会では、市民とまちづくり協議会ということで、市民に関連した内容が出ています。

方針としては＃2の関係機関ではないけれど、市民が集まってやっているところが、＃2のヤマミラのところでもあってほしいかなと思います。

それですね、44ページのストーリーの3段落目のところで、全角と半角が混在しているので、これは直してもらえるといいと思います。

48ページの市民×まちづくり協議会×市民公益活動団体とありますが、この概要を読むと、要は昨日までボランティアでやっていた方が、利用者が使いやすいということで有償ボランティア検討委員会を設置されましたということですね。

同じく一番上の市民×まちづくり協議会×市民公益活動団体のところに、関係機関の役割として、この有償ボランティア検討委員会が市民公益活動団体に該当するのか、市民に該当するのか、どちらなのだろうと気になりました。

#### 【事務局】

実際に地域に行くと、団体所属なのか、まち協所属なのかという線引きができてにくい活動が生まれてきているという意味で、あえて関心を持っている市民さんもこの検討委員会には参加されているので市民というふうに書かせていただいています。

その辺が新たな取り組みというところでは、非常に大事なエッセンスかなというふうに思うので書き方はちょっと工夫するにしろ、地域のこともありますので、聞きながらちょっと直せるところ

は今回直していきたいなと思います。

【副委員長】

そこに関連してですが、関係機関の役割のところは、関係主体の役割に変更した方が表現として合うと思いました。それは定義の部分で主体というワードを使っていますので、そこと合わせる方が良いと感じました。

【委員長】

今言っていたことは大事だと思っていて、これまで組織というのを明確化できていなかったもので、事例として見せるならば、住んでいる人たちが真ん中にいながら、社協やまち協がくっつくような形で起こっているという話を、もう少しちゃんと書いた方が良いと思います。現場ではもう福祉とかまちづくりとかそういう組織的な分断じゃなしに考えられていると思うので、もう少し変えた方がわかりやすいと、今の話を聞いて思いました。

【事務局】

はい、その通りですね。

【委員長】

さっきの話を受けて、もう一つ思ったことがあります。33ページに「場所・機会の提供」による「人づくり」の評価の視点の中で、「職員一人ひとりの協働事業の展開に向けた意識を向上できている」というのが書かれていますが、それについてだけチェックポイントが割合の数字だけになっているのは、これはどうなったら職員が参加している形になるのか疑問に思いました。

むしろそこをきちんと書いておくことが必要だと思うので、ここだけチェックポイントになっていないのですよね。どうなっていくのがいいですかね。どうしたいかっていうのは、市の方で言うならば、市職員が増えて、協働意識が向上できているという話は、具体的にはどんな行動目標がありましたか。

【事務局】

それがチェックポイントとして表示できるかどうかは別として、話させてもらいます。例えばこの事例でいいますと、いろんなものの協働の活動なり、取組が行われております。

私どもまちづくり協働課なんかですと、いろんな地域に行って地域の方とお話する機会がございます。そういうときに協働で物事をやっていこうという前提で、各政策の政策課題もどんどん言って、地域の人と共有するっていうことがまず大事なかなと思っています。

そういう意味でこのチェックポイントで言うと、各セクションの職員が、地域住民の方と政策課題を共有できているかということのチェックポイントかなと思いますが、チェックポイントという

割にはつかみどころがないのかなというふうに思いますし、その辺はどうしたらいいのかなというのは、今御指摘いただいて思っているところです。

例えば中間支援組織ですと、事業団がプロデュース型の伴走支援でまちづくり協議会に入ってきたりとか、学生のサークルと地域をマッチングしたりだとかということで、現場で協働が生まれていたり、社会福祉協議会の進行によっていろんなところで協働事業に取り組まれていたりというので言えます。

しかし、市職員はと言うと、例えば福祉分野で言うと、介護保険制度というかつちりした制度があって、制度を通してしか市民とは確かに接してないところがあります。ですが、最近の国のトレンドといいますか、政策の方向性としては、いろんな場面でこういう協働があっていくっていうときに、市が考えている課題や各セクションが抱えている政策課題が地域の皆さんとか、各主体と共有できているのかなっていうのは甚だ疑問ですけど、そこをどう書いてあるのかなというふうに思っています。

#### 【委員長】

思わず言ってしまいましたが、これってもしかしたら一番よく言われていることで、市と市民が遠いため、お互いよくわからないという状況ですよ。しかし市の各職員がそういう協働を意識する中で一番大事な部分ですよ。

本当は協働だとか参画だとかという話をする行政はいかにあるべきかという、多分行政なりの議論がまずは進められると思うのですが、今の話でいくと具体的にスペックがないということのを正直に告白しちゃったのかなということですね。

#### 【事務局】

まちづくり協働課ですと、まちづくり協議会とか町会長とかと接する機会がよくあります。

#### 【委員長】

関わらないといけないところについては、きちんと地域に出ているかとか、直接市民の生活に関わることにについて、市民の声を聞く状況は作られているかという話は結構大変で、資料の中で出てきていますが、もう一つ市の中での取り組み方、もしくはこういう協働と参画とかいう部分の姿勢の中での取り組み方、もしくはどういう手を打ったらいいかという議論を進めることを、多分市長案件になるから簡単に書けないと思うけれども、検討が進んでいるかという話が実は今の話ではチェックポイントとして出てくる話だと思います。

今おっしゃっていたような話を具体的に次のステップに進めるために、きちんと市の内部で議論する場があるか、議論が進んでいるかどうか、ということのような気がします。書くのは難しいので、こっそりと書けたらいいですけどね。

## 【J 委員】

今の議論に関してですが、私もここにチェックポイントが何か欲しいなって思っていたのですが、そもそも今まで意識調査で何らかの数値があったと思います。

各取組テーマのところには、市職員の育成というのは職員研修で見ますと書かれていますが、それだけではないというところはおっしゃる通りだと思います。

研修なんて言いましたけど、仕事の中でそういうことをやって育成していくというのは、そもそもあると思うので、そういうところの認識が市の中で、あってほしいなと思っています。

簡単にはいかないかもしれませんが、単に研修のときにだけ意識するのではなくて、日々の業務で研修を進められて意識づけられるようなシステムはないのですかね。

## 【事務局】

それが関係するかどうかは別ですけど、ある学区で地域課題とかをごちゃ混ぜにしてお話をする機会があって、関係課からも何人か寄せてもらいまして、その一つにまめバスまめタク公共交通政策のルート変更っていうことで取り組みをさせていただく場面がありました。

それは当然利用者からすると生活にも影響するので、丁寧に地域にルート変更の説明を前もってさせてもらっていたのですが、それも受けてですけど、予算の制約もある中で、全て100%ドア to ドアの公共政策などはできないですけど、その担当部署のところに役員さんが一同に非難をするという場面があって、そういうところの課題として共有することが協働を進めていく上で絶対必要で、そういうことを果敢に言える職員を育てるのが一番重要だというふうに思っています。

そう考えたときに、どう書くのだろうと思いながら書けていないのですが、表現で言いますとそういうことをほのめかしているところで49ページを御覧いただきたいのですが、この協働のまちづくりを推進していくための「計画の推進体制の整備」の最後の文末下から3行目のところで、実は部長級を集めた本部会議というのを設置しております。

その部長会議だけではちょっと機能しないので、その下に総括副部長で構成する幹事会というのを設置しています。

ここにも書いておりますとおり、「協働のまちづくりを推進するための施策の検討をはじめ、各主体と協働による解決すべき政策課題等を共有する」ということ、ここが一つチェックポイントに何か使えるかなと思ったりしていました。

## 【委員長】

チェックポイントというのは、考えてみたら来年度以降にも委員会を設置する中で、毎年協働が進んだからそれが広がって ABC とか出てくるあれをきちんとチェックするための、質的なチェックポイントが書かれていると思います。

そうすると、ここに例えばこうするなんてなくても、さっき言った話ですけど職員研修は有効に

行われているかとか、自主的に職員と市民を繋ぐような研修になっているかという文章と、もう一つのチェックポイントとおっしゃっていた本部会議あるいは幹事会という文言を入れるかですね。

でも「議論は技術的なものだった」や「有効な議論だった」ということを書いているだけで、チェックの場合に話せるという状況だけは作っておく必要があるのではないかなという気がします。チェックポイントというのはそういうものですね。

少なくとも毎年の委員会で、本当にできているかという話をして、だから具体的な策を今すぐ書くというのは難しくても、少なくとも、来年度、再来年度に具体的にどんなことをしたとか、どういう工夫をしているのかという話を問いかけられるためのチェックポイントは書いておいてほしいなという気がします。

例えば、有効な話が出たとかいう話があれば、そのときにどんなことしたって聞けるし、あるいは情報が出せば幹事会の議事録を出すわけにはいかないかもしれないけども、こういうことが話し合われたという話だとかいうのを報告してもらおうという話にもつながると思います。

そういう意味で今のところ、この会議以外に、市がやっていることと市民をつなぐチャンネルがないと思うので、そういうことでも繋げてもらったらいいなという意味でこのチェックポイントを活用していただきたいです。

#### 【事務局】

書かせていただこうかと思いますが、当初このチェックポイントに職員研修の話を書こうかと思ったのですが、評価委員会の中で話題として取り上げられたので、どうかと思ってあえて外していましたが、今皆さんから声をいただきましたので、加えさせていただきます。

あと本部会議、幹事会は毎年開かれるものではないですが、書いておくことによって評価委員会で議論していただけるということでしたら、それも加えたいなと思います。

#### 【J 委員】

評価の視点と目標値等の設定のところと、その前段階の31ページ32ページの各取組テーマと、この後に続く具体的施策がポイントになるのかなと思っているのですが、例えば33ページの「場所・機会の提供」による「人づくり」の目標値の達成に向けたチェックポイントとか、講座について期待される効果が得られるかっていうところですけども、ここのところがどういうふうに使われておられるのかわかりにくいと思いました。

31ページのところにはないのですね。

後のところのそれぞれ例えば中間支援組織あたりにいろんなところがあったりとかはあるけれども、そこでどう関連しているのかということと、それから目標値の達成に向けたチェックポイントですので、この目標値が市民主体のまちづくりが進んでいると思う市民の割合になりますが、達成に向けたチェックポイントで講座の効果が得られれば、この目標値は上がるのでしょ



か。

ちょっと遠いかなと一瞬考えたところがあって、31ページ、32ページの取組テーマで書かれているところに、達成に向けたチェックポイントが書かれた方がいいのかなと思うのですが、その辺りは市とか中間支援組織の取組としてはどういう形がやりやすいかというのを考えられて、この講座をやられたのかもしれないですけども、そここのところはちょっと説明をしていただきたいです。

## 【事務局】

33ページのところで、目標の達成に向けたチェックポイントに講座のことを書いていますが、これがすぐさま目標値につながるというふうに思っているわけではないです。

協働のまちづくり計画では市民意識調査の目標値をいくつか取り上げていますけれども、それには多様な要因があり、なかなかそこを一つ一つ積み重ねて、たどり着くことを表現するのがすごく難しいので、ここに書かれたチェックポイント自体はこの評価委員会で話し合ってもらうポイントとして絞って掲載させていただいているものです。

講座については、後ほど具体的な講座名等も出てくるのですが、31ページ32ページのあたりでは、市以外の主体も含めてどういうことをしていくべきなのか広く概念を表現していますので、ここではその具体的な表示が出てきていませんけれども、後ろに行くに従って具体的な表現を加えていっているという構成になっています。なかなか分かりにくいですね。

33ページの表の上の方の4行目、第二段落を見ていただきたいのですが、各主体が協働のまちづくりに自ら取り組むことが重要なのですが、各主体というとそういう政策があるわけではないので、いかに市や中間支援組織が各主体自らまちづくりをするのかということが、協働のまちづくりの本質かなというふうに考えております。

この計画に位置づけたときに、目標値については市民意識調査で、アウトカムの数値にこれを高めていくことが、協働が進んでいるという数値かなと思っています。

次にこの評価委員会で評価するためのチェックポイントになるかなというふうに思ったときに、やっぱりその市民さんとか市民公益活動団体さん、まちづくり協議会、あるいは立命館大学の学生とのマッチングというのがこの第2次計画期間中に出てきているのですが、そこに影響を及ぼすものは何かというと、まず講座であったり意見交換会であったりがあります。

このチェックポイントで言うと、「まちづくり等に関する講座について」というふうに講座に特定してしまっているのが、ここは「何とかっていうふうにして」と書くのも一つかなと思って聞かせていただきました。

結局そういうことで、どういう期待される効果が得られているのかということも今後評価委員会でいろいろ意見とか聞いて、是正していくとかってことをやっていくべきかなというふうに考えております。

ですので、質問に対して説明にはなっていないですけど、というところかなと思っています。

【J 委員】

「講座等」にさせていただいて、もう少し具体的な市の取組を入れたらいいのかなというふうに思います。

32ページの取組テーマ3では、地縁組織に関わるところの課題が上がっているところだと思いますが、評価の視点から目標値それぞれにおいてどちらかというと市民公益活動団体の取組が主になっているのですが、そこに自治会組織の取組とかそういうものが含まれてくるといいのかなというように思いました。

ただ目標値にあげるものがないというので、例えば、町内会の加入率だとか、地域の組織・グループに加入している割合の今までの評価があったと思います。

あれはどれだけ自分の参画意識が高いかというのを調査していると思うのですが、取組テーマの方向性の中で、準参画層を増やしていくというのが一番基本の方向性だったと思いますので、そのようなことを考えれば準参画層が増えたというようなことが意識調査の中で出てくるとよいと思ったときに、地域の組織・グループに加入しているという評価項目が今回の修正でなくなったのは寂しいと思っています。

【事務局】

ありがとうございます。おっしゃっていただいたように、確かにこの目標値で地縁組織の内容が抜けているかなと思いますので、今、木下委員がおっしゃっていただいた地域の組織やグループ等に参加している市民の割合というのは市民意識調査で同じく項目としてありますので、ちょっと検討させていただきます。

【J 委員】

変えていいのか、追加できるかどうかも分からないですね。既にテーマで一つにまとめられたのであれば、追加できないと思うのですが。

【委員長】

三つの取組テーマとチェックポイントの対応は、厳密に考えておかしい話ですよ。

ただ今の「組織の活動の見直し」等による「持続可能な運営」に対して、地縁組織が抜けてしまっているのは、地域の組織の加入率などの大事なことに代わる気はします。

それでいうと目標値を上向きで書くのは難しいかもしれないけど、だからこそ多分指摘ポイントが出てくるのだと思う。数字はどうかという話で、どれを持ってくるかは別として、今おっしゃったみたいに、準参画層が増えてきているかどうかという概念を出しているのは、だいぶチェックポイントになります。

ただその準参画層をどうやって把握するかというのは、市民意識調査の方に何か加えてい

かないと把握できないかもしれないですね。

そこをちゃんと検討しなきゃいけないですけども、準参画層はどういうふうに変わっていったのかというのをきちんと押さえる必要があると思います。

言葉で言うならば、地域活動の運営の中における私発協働が進んだのか、文言で言うならば非常に曖昧だけど、いわゆる市民の参加とか、そういうセリフになるだろうと、そういう形で補充しなきゃいけないかなという気がします。

数値と目標の関係が、どこかに書いてあればいいと思いました。

目指すべき数値目標のところと、そのための私的目標という話に分かれるのは、ものすごく混乱するので、「数値目標としては、参加が進んでいる、協働が進んでいるということを確認するために、こういう数値目標があった。それを達成するために、数字で確認できない質的な目標を設定する」という考え方をしているのですね。

実際は言葉で書かれている話は、ある数値だけで対応するわけではなく、いろんな状況を変えるからこそ、言葉でしか書けないわけだから、本当はそういう代物だということを理解した上で書く必要があると思います。

それを根本的に変えるのはしんどいので、言葉は悪いですが、書いてある話を武器にして、きちんと今後話をするための材料だと私は理解しています。

それを誰か使う人が出てきたら、ここに書いてあるじゃないですかという話ができるような代物を持っているので、そういう意味でどこかに書いてあるといいかなと思いました。

## 【事務局】

すみません、よろしいですか。町内会の加入率や、基礎的コミュニティはすごく重要なセンテンスで、町内会の加入率は年々低下傾向にあるということはもう前の課題で共有させていただいているかなと思っています。

1次計画、2次計画の流れでいきますと、計画のつくりとして、主体ごとにどうしていくっていうふうなつくりであったというのが2次計画までの特徴かなと思っています。

3次計画で言いますと、主体ごとで目標をつくっていきましようと言ってもなかなか進まなかったというのが見えてきています。それが、3次計画の計画期間中に見えてきたものとして、町内会を完成するための、まち協としてこういうことを遠回しでもやっていこうというのが見えてきたかなというのが草津市の大きな特徴で、今後目指していく協働のまちづくりのイメージが見えてくるのかなと思っています。

委員長がおっしゃっていただいていたその言葉で、この具体的な目標値とかチェックポイントには書かせてもらっていないのは、基礎的コミュニティだけ入れると、市民や教育機関、市民公益活動団体の目標値はないというふうになるので、あえて載せなかったというのが、今議論させてもらっている中で思い出しました。

その中で、言葉だけでは3次計画はどんなことを目指していくのかということで、準参画層を

どういふに広げていくかということが見えにくいので、やはり最後に事例を載せてこういうことをもっと広めていくための計画にしていきたいと思いますという趣旨があったからだと思っております。

ちょっとそういうところで、逃げみたいになるかもしれないですけども、御理解いただきたいなと思いますし、入れ込めるところはまた参考にさせていただいて、無理にそこだけ数値とかを入れてしまうと目立ってしまいますので、ちょっと控えさせてもらいたいというのは思っております。

### 【副委員長】

ありがとうございます。これまでのお話に関連した話になります。これまでの計画では、主体ごとに見るというところが、やはりあったということを聞いて、私もそう感じています。例えば、5ページを見ますと、市民、まちづくり協議会、基礎的コミュニティ、中間支援組織などといったように、主体ごとに並んでいます。今回の計画策定で学んだことは、それぞれの主体を区切って見るのではなく、主体を横断的視点で見えていくことだと思います。

ですので、33ページの「組織」のチェックポイントの部分は、主体横断的な視点やそれぞれの主体の中に含まれる私発の動きに目を向けることを大切にされた方がよいと考えます。

乾委員長が計画策定後のこれからの話をされました。私も自治体で職員を対象とした協働の研修の講師を務めたことがございます。協働の研修というと「協働とは何か」というそもそも論が話されることが多いですが、草津市においては、「協働とは何か」というテーマだけではなく、主体横断的な視点で担い手を捉えること、あるいは、老上のジャガーの部屋さんとまち協の協働や山田のヤマミラの動きといった事例を共有することを行なっていくのもよいと感じます。

特に、市民との協働を市側がどうしていくかということが悩ましい。ある自治体の事例をあげますと、各部署に協働推進委員という協働を推進する役割の方を置いて、市民からの相談等の中で協働の芽がある取り組みであれば、協働を促進していくというようにされています。しかしながら、その制度自体が形骸化してきており、うまく機能していないと聞いています。背景には市民と協働することによって、ある部分では業務が増えるというジレンマがあります。市における協働の仕組みをどう検討していくかということ自体が大切だと思っています。

少し長くなりますけれども、31ページに関わる場所について話します。先ほどお話しした横断的な視点というのが、この計画の1つ目の大切な点です。2つ目は、福祉とまちづくりの融合だと思います。融合を図る時に、私が注目しているのは、子ども食堂などの居場所です。福祉的な課題への取り組みですが、そこが福祉分野の方々やまちづくりの方々が集まるまちづくりプラットフォームになっている実態があります。

計画に書いてあるまちづくりプラットフォームは、中間支援組織で少し大きく書かれています。が、地域レベルといったもう少し小さな圏域で見た場合、子ども食堂などの居場所がまちづくりプラットフォームとしての機能を果たしている場合もあります。京都の事例では、このような居場所

所を起点として、人々が出会い、若者のシェアハウスなどの取り組みも始まっています。計画のどこに書くかは考えなければいけませんが、「福祉のまちづくりの人材が会う場所」の部分の評価の指標として子ども食堂が何ヶ所あるかといった居場所の数を入れてもよいと感じます。どのような居場所があるかは、社協さんが把握されていると思います。以上です。

#### 【委員長】

今の話を受けてですけど、目標値として町内会加入率を増やしたからといって、協働が進むかというは無理な話だしそれが本当に必要な話なのかどうかというのは、議論があってもいいと思います。

ただ数値をどう書くかは別として、評価の視点の中に市、中間支援だとか、基礎的コミュニティやまちづくり協議会の活性化とか、そういう話はさっき言ったみたいに、書かれていた。

目標値の方で基礎的自治体やまちづくり協議会の理解は進んだのかということは多分大事な部分だと思います。

それは多分先ほどおっしゃった、これからのまちづくりをやっていく上でも、基礎の部分になると思うので、併せて基礎的自治体やまちづくり協議会の活動の中で私発協働が進んだとかがあっても良いと思いました。

多分この計画の大きい大事な部分が、各主体がバラバラじゃなしに、各主体がそれぞれ表面的に重なる状況が出てくるということが重要だと草津市が思っているとする、その辺はかなりきちっと書いておいた方がいいですね。

しかし、今の話ともう一つ大事な部分で、中間支援でも、草津市の場合はコミュニティ事業団も社協さんどちらも頑張っているが、この二つが一緒になってやるような、中間支援の向上であればその組織の活動のチェックポイントになっているけれども、ゲームワーキングならば何か福祉の課題とまちづくりの課題が連携して行われるような場面はバラバラに作られたから、多分これが「場所・機会の提供」による「人づくり」だと思います。

そういう話として言いたいのは、そういう文言があつて同時に先ほどおっしゃったみたいに、草津市の第3次計画が各主体の中でうまく隠したり、重なったりしていくことを踏まえた内容として、先ほどのキーワードですけれども、市民が現実にはまちづくり協議会と言いながらも、市民的な動きがあつて、そこに他の学区が全体に来るとか、そのような状況を夢見ているとするならば、そもそも夢見ている話についてはチェックポイントの言葉をきちんと書いておいた方がいい。

チェックポイントと言いながらもそれはある種の夢ですね。草津市の第3次計画における夢みたいなものは、大事にしてチェックポイントという形で書いておいた方がいい気がします。

#### 【事務局】

また再考させてもらいますが、例えば、今、2次計画までの課題をワークショップで出してい

ただいて、そこも第3次計画の取組テーマで三つに絞らせてもらいました。この三つは、この表の通りでちょっと言葉を訂正します。

先ほどうちの補佐から言いましたように、うちの目指している協働のまちづくりというのは、この三つの項目をミックスして総合的に進めていくものだっていうところなので、表外でそういうことも総合的にどういうものを目指しているのかというのを、チェックポイントとして書くのか、目標値を定めずに、何かうまく表現できないかなと今お聞きしている中で思ったので、ちょっとまた再考させていただきたいなと思います。

**【委員長】**

方向性を変えないように言いたいですね。

**【事務局】**

今委員長がおっしゃった中に、市と中間支援組織または中間支援組織同士の話で、33ページの取組テーマを書かせてもらっていますので、具体的にどういうことをしたのかというのを、この場で次年度以降披露させていただいて少しアドバイスをいただければなと思っています。

**【J 委員】**

よろしいですか。

ここで目標値の数値を設定されていますが、これは何らかの根拠があつてこの数字を入れているのでしょうか。

**【事務局】**

市民意識調査というのが、草津市の最上位計画の総合計画においても要所、要所に使われているというのがありまして、それを小数点第一位まで表示しているというところと、ちょっと視点を合わせたというだけのものがございます。

**【J 委員】**

小数第一位まで表しているということは、この小数第一位に意味があるということではないのですか。今までの20%増とか、何かそういうようなものみたいに書かれたわけじゃないのですか。

**【事務局】**

一応この間には令和6年度、7年度の数字がありまして、過去の伸び率から計算してここにたどり着いたということです。

【委員長】

よろしいですか。ちょっと最後に今日しか機会がないので、ないならないでいいですけど一人ずつ御意見いただけたらと思います。

【E 委員】

話を聞かせていただいたり、議事録を見せていただいたりする中で、はじめは全然分からない中で参加していましたが、この委員会に参加していることで、地元で開催されている小規模イベントについて、運営者はどのような方で、どれくらいの関係人口がいるのかという視点で見ることができ、各種イベントなどへの見方が変わったと感じています。

【G 委員】

私が普段活動する中ですごく感じるひとつづくりのところですが、人に依存する属性というのがすごくあって、どういうふうにして人を育てていくかということに対して、環境を整えるということがすごく大切で、でもそれをどこへ持っていったらいいのか、どこで諮ったらいいのか難しいなと思いながら、この計画を見ていました。

本当だったらそこを持続可能っていうのは、スクール ESD とかでも人が変わっても続けていけるっていうので、人が変わっても続けていける、そういうまちづくりにしていけないかというのを、どういうふうに表現したらいいか自分でもわからなかったので、何かそこがうまく書けたらいいなと思いながら、自分の理想を言ってしまいましたが、こういうことが将来できるように、計画にも表現できたらいいなと思いながら今日もお話を聞いていました。

【委員長】

要するに継承性の問題が本当はありますよね。市民団体にも同じことですよね。

書きにくいから書かないにしても、実際に少しでも有効性があるのは、中間支援組織です。中間支援組織がそういう地域の中にきちんと入り込んで、新しい人材をちゃんと繋げていく。

それは言うこと聞かせるのではなく、見つけていって繋げていって、その次の世代を活発化させていくということは、ここに書くのはむしろその仕掛けの方の話になると思います。

【I 委員】

8月30日のワークショップで、まちづくりと福祉の融合というテーマに参加させてもらって、ここでは福祉というのは繋がりが大事だということが30ページに4つほど書かれておりまして、そういう中で町内会というものには12ページに書かれているように、役員の負担などの問題がありまして、それらを見直す必要があります。

一方では、日常的な繋がりとというのが大事だというのは、例えば孤独死が出てきたときに、市の福祉の負担が大きくなるということで、それ以上にやっぱり近所の基礎的なコミュニティ、町

内会というのが、絶対にあると思いますが、それを育成する必要があると思います。

例えば老人会だったらその誕生日に何か行事をするだとか、何月から何月が誕生日の人は集まってもらって、何かちょっとそこでね、養生するということですから、まだ繋がりができるのかなというのは一つ思いました。

防犯とか防災とか、今の問題である孤立から守る方法を先進事例とかで積極的に守る方の協働が必要だなというふうに思います。

それともう一つ思うのは、繋がりという意味では僕もそうだけど、この草津市役所の社会教育課がやるっていう、いわゆる文化活動を僕もここで初めてさせてもらったのですが、そこから4年間続いているけど、そういうところからスポーツクラブや文化サークルで支援が繋がるということでも安心できるということをやっています。

高齢者が多いので、ここは教育委員会が目指しているものをもっと重要視してほしいというのは思いました。

それともう一つは福祉のことで8050問題といって、高齢者が働いて50歳の子どもの面倒をみているというのを見たことがあるから、ヤングケアラーというような若者が仕事に行かないで介護しているとか、そういう状態にいろんなものがバラバラになったものを、協働でそういういろんな見本が集まって体制をつくるというのも大事だというのが、私の思った感想です。

#### 【委員長】

この辺りはたぶん市民協働では済まない話ですよ。それからスピード性があるわけで、逆に言うとさっきのが、ちゃんと市民と繋がっているかという話だと思います。

社会教育として教育委員会が話している話は確かにそうですね。あれは別物みたいに見えるけど、実際は大事な話なのでそこも踏まえた対応をしないといけないのですよね。

#### 【F 委員】

言うほどでもないと思いますが、29ページの取組テーマの図ですが、無関心層が左の方がしっくりくるなと私は個人的に思っていました。

あとは22ページに課題がいろいろ書かれていて、取組のテーマが決まって、具体的施策が書かれていますが、毎回課題は何だったかページを何度も往復しながら確認していたので、すぐに課題に立ち戻れるような、課題が何だったかちらっと確認できるようにしてもらえると読みやすいのかなと思いました。

#### 【委員長】

これはもう言いませんが、課題に対応して目標や施策が書かれていますから、課題がすぐそばにあれば、すごく分かりやすくなるなという話ですね。今後の参考にさせていただければというくらいのお話ですね。



### 【C 委員】

個人的にまちづくりというのは、市民がこんなのがあったらいいなとか、これだったら自分にもできるけど、でも形にできないなというところから始まって、それがいろんな組織とか、あるいは行政とか事業団とかそういう中間支援組織に繋がって、私がいいなっていう思いがあるので、この好事例がすごく私にとっては参考になります。

特にこの市民と書いている7つの主体でどういうふうに絡んで、こういう事例ができたのかなというところに興味があるので、先ほどの繰り返しになりますが、課題を入れてもらえたらもっと読みやすいとは思いましたが、でも意見は言わせていただいたので、良かったです。ありがとうございます。

これだけまとめてくださって大変だったと思いますが、流れも分かりやすく良かったです。

### 【副委員長】

委員の皆様、そして事務局の皆様、ここまで一緒に作り上げてくださり、誠にありがとうございます。感想になりますが、日本において人口減少の局面に入ったのが2005年。その後、世帯の縮小と世帯の減少があります。高齢者ですと、配偶者との死別によって単身世帯になり、若い世代は、未婚のまま都市部で単身生活を続ける。世帯の縮小が進む中、世帯加入の町内会や自治会に代表される地縁型組織の担い手が減ってくるは当然とも言えます。

草津市でこれから大事にすべきことは、私発協働のような考え方やラウンドテーブル(対話型市民参加)のようなものだと感じます。私個人の想いや問題意識を起点となり、他の主体との協働を伴いながら、何か新しいアクションが生まれていくという流れです。

それを動かしているのが、中間支援組織やまちづくり協議会だと思っています。先ほど継承性の問題とか出てきました。その点は、私もどうしたものかと思っております。世帯や地域に頼れなくなったときに、私発の動きに頼っていく流れがこれから出てくると思っています。

ただ、私発というのは、大阪ボランティア協会の早川さんが「自発性は揮発性」と表現するように、継続がなかなか難しい面もあります。関わり得るのは、関わりのあり方が緩やかであったり、上下関係ではなく横の関係で動いたりといった部分があります。そのような関わりを可能とするには、中心となる人たちがかなり頑張って様々な人が関わりやすい状況をつくっている。例えば、メンバーが関われない場合、自分がちょっと頑張るというふうにして、「私たち」として動いている。「私たち」の中心には結構汗をかいて頑張らないといけない人がいるという状態があると思います。

あと、私発協働は、「私発」と「協働」の言葉で成り立っています。「私発」の動きがどう「協働」していくかや、まち協が「私発」の動きにどう寄り添っていくか、行政が「私発」の動きにどう支援をしていくかというところを考えていくことも大事です。

ですので、計画のこれからを考えた場合、私発の芽を育てていくターンと協働を促していくターンがあると考えます。全体を通じては、私発の動きをどう協働化していくかという手法を育てていくことが大切だと思います。そのあたりが計画の策定を通じて、学ばせていただいたところですよ。ありがとうございました。

#### 【委員長】

まず事務局さんは随分悩んだと思います。時間がない中で出た意見をまとめるのに、必死な思いをしてくださったのは申し訳ないと思います。

ちょっと私の個人的な話で、今、私発協働とかまちづくりの担い手とかの話があるので、ちょっと違うことを話しましょう。そうやって頑張れる人、リードしている人はすごく大事で、担い手として実際は暮らしがあって、そうではない人も沢山いて、その人たちが幸せなという言葉は最近臭くてしょうがないように思われがちですが、やっぱりどんなふうに人生を幸せに暮らすかという話が、まちづくりと呼ばれるもののベースになってくると思います。

その人たちがどうなるかという話を常にしていけないといけないと思います。

そのために頑張る人がいるということ、草津市の中で大きな意味でも言われている暮らしとか、行政はそのために存在すると思いますが、そういうのがどんな状況なのかなという話を、やっぱり常に見ておくべきで、うちの大事なそこにあるだろうと私は思っています。だから実際は動かない人たちにも思いがあるし、チームの関係がないように見えながらも求めているかもしれないですし、きちんと繋がっています。

これは去年のコミュニティ政策学会の件ですが、点と点を繋いで線をつくる、線を足すことはできるが、でも面としてどうなのだという話になったときに、面をどうやってつくるのかというのはなかなか難しい話だと思います。その視点はやはり忘れてはいけないと思います。

もう一点だけ。49ページの協働のまちづくり推進にあたっての話の中で、これは多分他に委員会がないので、草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会が、唯一市の中で協議できる窓口になるということですよね。

だからそういう意味では、市民参加の場を生かしていくという話は、この中に書かれてないといけないと僕は思います。

推進に当たって、推進体制として市役所の中でこういう協議をしますとかいう話だけでなく常にそういう開かれた場があり、委員会での議論を受け止めてやっていくという話ですよ。もっと欲を言うと、それだけでなく、そういう開かれた場をより作っていくという形で推進していくみたいな話があるんじゃないかと私は思います。

ということ言って、他に何もなければ終わろうと思いますがよろしいですか。

それでは、次第に戻りまして、次第3のパブコメ実施について報告してもらおうと思います。

### 3. 報告事項

---

【事務局】

(パブコメ実施について説明)

【委員長】

ここについて質問などはないですね。では、予定時間より早いですが、進行を事務局にお返しします。

#### 4. 閉会

---

【事務局】

改めましてですが、沢山の御意見をいただきまして誠にありがとうございました。皆さんのいろんな立場で見ていただいて、この3次計画を作るにあたって正直申し上げますと、9月の初めぐらいまで事務局もだいぶ悩んでおりました。

私はまちづくり協働課課長をして4年ですが、1次計画2次計画を何度も読ませていただきまして、ここの委員会で言われた印象的な言葉として、「草津市の協働は何を目指しているの」というのはまさにそうだなと思っていました。

そういう中で今回皆さんの立場から色々御意見をいただいて、私発のターンがあって協働のターンがあって広がっていくってということで、現場ではラウンドテーブルだとか中間支援の事業団とか社会福祉協議会もいろんな現場で頑張っています。

一方で、まちづくり協議会に目を向けたときに、協働が進んでいる感と進みにくい感じを明らかに感じます。その違いは何かというふうに思うと、中間支援組織のコーディネート力もさることながらまちづくり協議会の事務局、センター職員のコーディネート力、コーディネーターですという自負はないですけど、自然としている職員がいるなどというのが大きいというふうに思っています。

もっと小さいところの基礎的コミュニティあるいは社会福祉協議会の活動とかというところに目を向けたときに、先ほどどなたかがおっしゃったと思いますが、路地裏とかでもちょっとした居場所ができるというのは、すごく現場のあちこちであって、そこは人の思いがあって初めて私発ができていたのだなというのを、過去に長寿いきがい課にいたときに、そういう現場を何点か見させていただいています。

草津市の協働ってそういう要素がいっぱいあって、他で言うと立命館大学の学生の地域といろいろ交流したいというサークルがあって、いっぱいエッセンスがある中で、どこからやっていたら進むのかな、それをどう計画に載せたら、ビジョンになるのかなと思いながら、ここにいる担当が一生懸命まとめてくれて、うちも事務局として、何を目指しているのかというのがだいぶ勉強になったなというふうに感謝しております。

石原から申しましたように、年明けにはパブリックコメント、12月17日には委員長副委員長先生に来ていただいて市長の方に提言いただくということで、一旦ひと区切りを迎えさせてい

たきます。

また今日御意見いただいたところで、細かい文言修正等もありますし、そこにつきましては、前回委員会でお伝えした通り、本日以降の計画案の修正および答申については、事務局および委員長、副委員長の方に一任いただきたいというふうに考えております。

また、こうして委員さんが年内一堂に会してお集まりいただくのは、まだ気が早いですが、これで最後というふうになりますのでちょっと早いですが、よいお年をお迎えください。本日はどうもありがとうございました。